

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：57403

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01431

研究課題名（和文）内閣の政治思想史 ヴィクトリア時代を中心に

研究課題名（英文）History of Political Thought on Cabinet: Focusing on Victorian age

研究代表者

遠山 隆淑 (Tooyama, Takayoshi)

熊本高等専門学校・リベラルアーツ系人文グループ・准教授

研究者番号：60363305

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果の中心となるのは、W・バジヨット（1826-77年）の政治論における主著であるThe English Constitutionの「第二版（1872）」ならびに、同書においては初版（1867年）にのみ納められた彼の選挙法改正論（「簡潔な選挙法改正構想」）の全訳を行い、これらを『イギリス国制論』（上下2冊）として2023年3月と5月に岩波文庫から出版したことである。同書は、イギリス国制を三権分立論や混合政体論から説明する伝統的な理解に代えて、これを立法府と行政府とが「融合」した議院内閣制としてはじめて論じた議院内閣制論の古典である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『イギリス国制論』出版の学術的意義は、私のこれまでのバジヨットならびにヴィクトリア時代ウィッグの政治思想研究の成果に基づいて訳語を選定し訳文を完成させたこと、ならびに、そうした知見に基づいて、本書やバジヨットの政治思想を理解するために必要だと考えられる政治的、歴史的な情報を訳注にふんだんに盛り込んだことにある。また、一般の読者も想定する岩波文庫から、豊富な訳注を付した翻訳を公表したことにより、バジヨットが論じた議院内閣制のしくみや作動のあり方に関する理解が広まることになると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The main achievement of this research is the translation of The English Constitution, the Second Edition (1872) which is the main work of Walter Bagehot in political theory and his "Simple Plan for Reform" (1865). These results were published in the form of Iwanami Bunko in March and May 2023. The English Constitution is the oldest classic discussing the system of parliamentary cabinet government, instead of the traditional understandings of the constitution as the separation of powers or mixed government.

研究分野：政治思想史

キーワード：バジヨット イギリス国制論 議院内閣制 内閣 選挙法改正 妥協 立憲君主制

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

従来のイギリス政治思想史研究では、ベンサムや J・ミル、J・S・ミル、T・H・グリーンに代表される被治者側の異議申し立ての議論(ラディカルな政治思想)に注目し、19世紀をかけて、いかにして政治的民主化が進んでいったのかを記述する、「民主主義の発展」史観とでも言うべき見方が主流である。本研究では、そうした見方の相対化を目的として、ヴィクトリア時代のジャーナリスト W・バジヨット(1826-77年)の政治思想を軸に、統治者として当時のイギリスにおける経済的、社会的繁栄を牽引し、議会政治をリードしていったウィッグの政治思想の研究に取り組んできた。その中で私が注目してきたのは、この陣営の政治的決定観であり、特にその中核をなしたウィッグの「妥協(compromise)」論だった。こうした決定観を分析する際に重要だと考えたのが、当時の知識人や政治家たちが「内閣」をイギリス国制(the English Constitution)の中にどのように位置づけ評価したのか、という問題であった。

## 2. 研究の目的

本研究では、当初は、ヴィクトリア時代のウィッグの内閣論について歴史的に追跡することを目的としていたが、このテーマに着手する前に、私がこれまで研究してきたバジヨットの政治論の主著である『イギリス国制論(The English Constitution)』(1867, 1872)における内閣論を分析する必要があると考えようになった。本書は、当時の伝統的なイギリス国制理解であった「混合政体論」や「三権分立論」を批判して、イギリス国制を、内閣を仲立ちに、立法権と行政権とが「融合」している実態を描き出して、のちの議院内閣制論の先鞭をつけた議院内閣制論の古典である。これまでの私の研究では、政治的決定論やこれと密接な関係を有する支配階級論の観点から本書を分析することにとどまっていたが、庶民院や貴族院、君主との関係など、イギリス国制全体の構造に関するバジヨットの理解と国制における内閣の位置づけや機能を正確に理解するために、『イギリス国制論』全体の翻訳を進めることに目的を定めた。

## 3. 研究の方法

本研究では、まず、私のこれまでのバジヨット研究をふまえて、バジヨットが『イギリス国制論』で展開した「尊厳的部分(the dignified parts)」の議論や「恭順型社会(deferential society)」論を読者に正確に理解してもらえよう、イギリス政治社会内における「敬意(respect)」をめぐってバジヨットが使用している用語を厳密に訳し分けた。Respect(尊敬、敬意)や deference(恭順(の念))、reverence(崇敬(の念))を丁寧に訳し分けることで、議院内閣制が成立する有権者層の政治的空間に関するバジヨットの議論が、読者にもはじめて明確になる。

また、本書は結果的に1867年に行われることとなる選挙法改正(議会改革)のあり方に一石を投じるために、バジヨットが『フォートナイトリー・レビュー』という雑誌の中で連載した諸論文を単行本にまとめたものである。そのため、本書は時論的な性格を強く有しており、バジヨットのイギリス国制理解、ひいては彼の内閣論を可能な限り正確に読み解いていくには、加えて、一般の読者にも本書の内容をできるだけ伝えるためには、本書の内容自体だけでなく、ヴィクトリア時代の具体的な政治状況や当時の政治、社会的な文化、社会の一般的な通念などを知る必要がある。こうしたことから、本書では、以上のような事項について、研究書だけでなく、事典類、辞典類など、様々な文献を購入するなどして入手しながら、できるだけ最新の学術的な成果を盛り込んで、できるだけ丁寧かつ豊富な訳注を作成するように努めた。

## 4. 研究成果

以上の作業を行って、バジヨット著、遠山隆淑訳『イギリス国制論』(上下2冊)を2023年3月(上巻)と5月(下巻)に岩波文庫から出版した。同訳書の末尾のために、「解説」(下巻313-351頁)を執筆して、特に議院内閣制論の古典という観点から、首相や閣僚などの指導的政治家をめぐるバジヨットの議論を軸に、バジヨット「イギリス国制(論)」の全体像を描いて説明を加えた。

加えて、本訳書、特に訳注の作成過程において、バジヨットが、イギリス議院内閣制が有効に機能するための条件として、様々な論文で繰り返し論じていた「妥協の政治」がウィッグのみでは成立せず、トーリーあるいは保守党との一定の関係が保たれて 具体的にバジヨットは、1860

年代前半に自由党と保守党間で成立した「パーマストン・ダービー連合」を想定していた はじめで成立するのだということ、したがって、イギリス議会政治における政治的妥協論の分析を進めて行くには、トーリー側の妥協の論理に研究対象を広げていく必要があることに気づくことができたということは、本研究遂行上のきわめて大きな収穫であった。『イギリス国制論』を全訳するという作業を、詳細な訳注を作成することをひとつの目的にして行ったからこそ見えた研究対象である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 遠山隆淑	4. 巻 85
2. 論文標題 不信のシステム バジヨットのフランス第二帝政論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法政研究	6. 最初と最後の頁 561-588
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 遠山隆淑	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 「バジヨット」野口雅弘他編『よくわかる政治思想』所収	

1. 著者名 遠山隆淑	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 256
3. 書名 「政治を学ぶと何が見えてくるのか」平井一臣他編『つながる政治学〔改訂版〕：12の問いから考える』所収	

1. 著者名 バジヨット著、遠山隆淑訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 318
3. 書名 イギリス国制論（上）	

1. 著者名 バジヨット著、遠山隆淑訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 366
3. 書名 イギリス国制論(下)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------